

教育評価・FD部門報告

2005年度は部門専任教員として調麻佐志助教授が赴任し、兼務教員4名、専任教員2名、合計6名の教員で活動を行った。主な内容は認証評価関係の業務と教員の教育力向上に関連した業務とからなる。

1. 教員の教育力の向上に関する活動

(1) 学生と教員による授業評価の実施

昨年度に大学教育センターが発足したのと同時に、OMRカードによる授業評価アンケートを実施している。今年度は対象者を常勤教員、非常勤教員に拡大し、さらに学部科目に加えて大学院科目をも対象として実施した。この結果、前期は373科目、後期は153科目のデータを回収した。調査は教員用と学生・院生用とに分けて実施した。これらの評価結果は全体結果と共に教員にフィードバックした。また、後期は「eラーニング用授業評価アンケート」も部門で作成し実施した。対象科目は4科目、回答総数32件であった。以上の分析結果は大学教育ジャーナルに論文として掲載された。

(2) 定例FDセミナーの開催

今年度から新規に教員向けの定例FDセミナーを開催した。開催回数は6月から12月にかけて10回開催した。テーマは下記のとおりである。テーマの設定にあたっては学生による授業評価アンケート結果の中から、適切と思われる題材を選択して設定した。全てのセミナー内容

はオリジナル教材とコンテンツを新規に開発したものである。また、少人数による参加型のセミナーとして実施した。

(3) 新任教員のためのFDセミナーの開催

東京農工大学に新規に赴任した教員を対象に「新任教員のためのFDセミナー」を今年度も2回開催した。時期は比較的時間の調整がとりやすい9月とし、15日と16日に開催した。会場は50周年記念ホールで実施したものである。今年度からセミナープログラムに工学工学部BT賞受賞者をゲスト講師として招き、講義を担当いただいた。

(4) 教員に対する支援活動

教員に対する教育支援を行うことを周知し、個々の教員の依頼に応じて活動した。今年度は16件の依頼があった。主なものはシラバス作成の相談と作成支援、授業評価アンケートの集計、学内センターの調査の企画と集計、授業構成の仕方に関する支援、授業用テキストの構成の仕方に関する支援、教育論文の作成支援、教育研究の方法に関する支援である。

(5) センターリーフレット・シリーズの刊行

教員の教育をサポートする上で、大学教育にかかわる内容や授業についての提案とまとめを今年度からパンフ

定例FDセミナーの開催

開催期日	時刻	テーマ	場所
2005年6月23日	14:00 - 17:00	「授業に役立つパワーポイントの作成の仕方、使い方」第1日	府中キャンパス
2005年6月24日	14:00 - 17:00	「授業に役立つパワーポイントの作成の仕方、使い方」第2日	府中キャンパス
2005年8月24日	15:00 - 17:00	「講義法の成功原則と授業の改善」	府中キャンパス
2005年8月25日	15:00 - 17:00	「講義法の成功原則と授業の改善」	小金井キャンパス
2005年10月24日	14:00 - 17:00	「eラーニングや授業で使えるパワーポイント作成講座」	小金井キャンパス
2005年10月25日	14:00 - 17:00	「eラーニングや授業で使えるパワーポイント作成講座」	府中キャンパス
2005年11月25日	14:00 - 17:00	「学生参加型授業の進め方をめぐって」	小金井キャンパス
2005年11月28日	14:00 - 17:00	「学生参加型授業の進め方をめぐって」	府中キャンパス
2005年12月14日	16:00 - 18:00	「プリント教材、教科書作成講座」	府中キャンパス
2005年12月15日	10:00 - 12:00	「プリント教材、教科書作成講座」	府中キャンパス

レットを発行することにした。今年度発行した内容は下記の3号である。

- 2005/04 発刊 NO.1 よりよい授業のために(1)
- 2005/07 発刊 NO.2 ティーチング・アシスタントと共に指導する
- 2006/01 発刊 NO.3 よりよい授業のために(2)

2. シラバス・キャンペーンの実施

大学教育の充実のために欠かせないのが、授業シラバスの改善である。記載内容が不十分であったり、必要項目を全て記載しないなどのシラバスも見受けられる。そこで、部門として教員に対してはガイドラインを作成して依頼し、点検を行った。一方、学生はシラバスを見ない傾向にあるが、これに対しても「シラバス見よう」キャンペーンを実施した。この結果、教員と学生の両者にとって有用なシラバスに近づくことができた。

3. 学生および大学院生に対する卒業・修了時調査

東京農工大学の大学教育に対する評価を卒業式当日に調査によって得ようとした。2004年3月に実施したものを解析し、報告した。

4. 成績評価報告書の分析

各教員の提出した成績報告書を分析して、改善提案を行った。対象とした科目数は591科目である。この結果からGPAおよび成績分布に今後取り組むべき課題を提起した。

5. 卒業生追跡調査

平成5年と10年の卒業生について追跡調査を実施した。回収したデータ多数派292件である。この結果を分析して、いくつかの課題を明らかにした。

さらに平成8年度卒業生7名に対して、本学の教育内容についてインタビュー調査を実施した。

6. 事務職員の研修に対する支援

事務職員の研修について教育にかかわる内容について部門として担当するとのことが部門会議で決定された。これを受けて専任教員によるSD研修を実施した。期日は2006年1月27日で2時間のセミナーとした。テーマは「仕事の改善とその進め方-学生サービスの在り方-」で、グループワークを主体とするセミナーとした。

7. TAセミナーの実施

今年度からティーチング・アシスタントに対するセミナーを開催した。6月8日と10月5日の2日間に府中と小金井で実施した。合計4回の開催であったが、学生で

あり、かつTAとして活動する基本的事項を提供した。

8. その他

(1) 部門会議の開催

部門会議は原則として毎月1回開催とし、業務に関する企画と実施に関する検討を行った。2005年4月、5月、10月は毎月2回、その他の月は毎月1回開催した。

(2) その他の会議への参加

部門業務に関連する各種会議に出席して大学教育センターとしての立場から協力依頼や意見を述べた。主な内容は下記のとおりである。

- 2005年11月から2006年3月まで毎月1回開催されるセンター専任教員会議に出席した。
- 2005年4月から11月まで工学教育部教育委員会4回、農学教育部教育委員会1回に出席した。
- 工学部ではBT賞を実施しているが、これに関連して2005年7月5日にBT賞受賞者の授業公開に参加し、2005年12月26日と27日に開催のBT賞選考委員会面接に出席した。
- 2005年10月6日、17日には教育版COEに関する意見交換会農学部に参加して意見を述べた。

(3) 各種セミナー、会議への参加

学外で行われる各種のセミナー、会議に参加することは部門活動の幅を広げる重要な機会である。下記の会議などに参加した。

- 2005年9月21日、22日に愛媛大学で開催のFDファシリテータ講座に部門より1名参加して活動した。